

論 述

注 意

1. 問題は全部で6ページである。
2. 解答用紙と下書き用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に縦書きで記入すること。
4. 解答用紙および下書き用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

次の文章を読んで以下の問に答えなさい。

問一 本文中の空欄

①

④

に入る言葉を、次の選択肢(ア)～(エ)から選びなさい。同じ選択肢を二度用いてはならない。

解答用紙(その一)を使用

(ア) 快楽的

(イ) 禁欲的

(ウ) 非対称的

(エ) 文明的

問二 傍線部(1)について、筆者はなぜ宮沢賢治の『氷河鼠の毛皮』を「予言のようではありませんか」と述べているのか。本文の内容にもとづいて百字以内で記しなさい。解答用紙(その一)を使用

問三 今日の社会が抱える「文明と野蠻」の問題に関する作者の見解を踏まえた上で、あなたの考えを八百字以内で述べなさい。その際に以下の語句を使用すること。「神話や儀礼、人間と動物、対称的な関係」解答用紙(その二)を使用

神話とは、ほんらい国家というものを持たない人々の間で生まれ、発達してきたものです。そこでは、人間と動物との間に越えることのできない溝などはなく、いつでも動物はその毛皮を脱いで人間のようにふるまい、人間のことばを語ることもできました。動物の性的魅力の虜(とら)になつた人間の女性は、すすんで動物と結婚して、森の中に消えていくこともできたのです。つまり神話という語りを通して、人間と動物の間や人間同士の間に、「対称的」関係が築き上げられていたのです。

神話を持つ世界では、人間は「文化」を持ち、動物たちは「自然」状態を生きていると考えられていました。「文化」のおかげで人間は、欲望を押さえ、節制した行動をおこない、社会の合理的な運行を維持する規則を守ったりしながら、動物にはまねのできない抑制のとれた生き方を実現できるのです。こういう「文化」を大切なものと考えていた社会の人間は、当然のことながら、自然やまわりの人間たちにたいして、きわめてエレガントな考えやふるまいをおこなっていました。近代の人々が「野蠻人」だとか「未開人」と呼んでさげすんだ人々は、じつは彼らを支配した近代人などよりもはるかに上等で優雅な「人間」だったのです。

神話を語っていた人々は、動物たちのことを「野蠻」などとは考えませんでした。動物たちは「自然」状態を生きていますが、そのおかげで動物たちは人間が容易に触れることも手に入れることもできない、「自然の力」の秘密を握っているのです。この世界の

眞の権力を握っているのは、むしろ動物のほうなのです。人間はそこで神話や儀式をとおして、つまりは「最古の哲学」の思考様式をとおして、動物との間に失われた絆きずなを取り戻し、「自然の力」の秘密に触れようとしていました。神話が語られた社会では、権力というものはそもそも人間のものではない、と考えられていたわけです。

ところが、そこに国家なるものが発生すると同時に、このような関係が崩れてしまうのです。国家を生きている人間は、「文化」を持つことを誇ると同時に、ほんらいは動物のものであつた「自然の力」の秘密まで、自分の手中におさめてしまおうとしました。

「文化」はほんらい「自然」との対称的な関係のもので、はじめて意味を持つものであつたのに、それがいまやバランスを失つた「文明」に姿を変えてしまいました。そして、そのとき同時に「文明」と「野蛮」の違いが、意識されるようになったのです。

相手が動物であれ、人間であれ、その相手のことを「野蛮」であるときめつけ、それに比べて自分たちはなんて「①」なんだろうとつとりしたりする。こういう考えは、世界を構成しているものの中に、容易に崩れたりしない

り、その関係を維持することは、人類の文明にとって「正義」である、という先入観がないと生まれられません。こういう先入観は、人間が国家を持たないかぎり発生しなかつたように思われます。神話的思考は、そういう先入観が発生しないための「哲学」として、大切な働きをしていたのです。

ところで、つい先々週(二〇〇二年九月二日)のことですが、ニューヨークであの事件が起こりました。事件の直後から、これは「文明」と「野蛮」の戦いであるというような表現が、大声で語られるようになりましたが、これにはびっくりしました。あのすばらしく高度なイスラム文明を生きている人々のことを、まるで野蛮人扱いするような表現が、アメリカの人々の口々からポンポンと飛び出してきたからです。

二一世紀が、「文明と野蛮」の問題がクローズアップされる時代になるだろうとは、まえから予測されていたことです。今日の世界では、富を得たものと貧しいものとの差が、極端に大きくなっています。人類の中のごく少数の人々のもとにだけ、富を得るチャンスや仕組みが集中してしまつて、圧倒的多数の人々には、そうした機構やチャンスに接近する可能性さえありません。富の配分が、極端に非対称的になつてしまつています。そうした世界は、自らテロを招き寄せてしまつてでしょう。もちろんテロは「野

「野蠻」の行為にはちがいありませんが、またそれに対する報復攻撃も、ひとつの「野蠻」をあらわしています。現代の世界では、富の配分の不公平という形をとった非対称性が、さまざまな「野蠻」を発生させてしまっています。

ニューヨークの事件があつた夜に、私がつまきに思い浮かべたのが、宮沢賢治のことでした。人間の世界に、圧倒的な非対称の關係が築き上げられてしまい、それが對話や富の公正な配分を阻んでしまつていくところには、しばしばテロが誘発されます。そんなやり方でなければ、おたがいの間に理解や對話を発生させる対称な關係がつくりだせないと考えた人々は、この「野蠻」な方法を実行に移すしか、ほかに手段を見いだせなくなつてしまうからです。

宮沢賢治は人間の世界に、そのような状況を見出していたばかりではなく、もつと根源的には、人間と動物の間に、揺り動かすことさえ難しい絶対的な非対称の關係がつくりあげられてしまつていくと見ていました。宮沢賢治は人間と動物を徹底的に分離してしまう考え方で、人間の社会に不平等や不正義がおこなわれている現実の間には、深いつながりがあると考えていたのです。そこで、彼はさまざまな作品の中で、利口な山猫や狐たちが、人間と動物との間の非対称をひっくりかえしていく、痛快な物語を語つてみせたのでした。

なかでも『氷河鼠の毛皮』という作品には、いま世界で起こつていくことの本質に深く触れている内容が、みごとに語り出されています。もちろんそれは近代の文学の作法にしたがつた作品には違いありませんが、その物語を突き動かしているのは、まぎれもなく私たちにもうなじみの深いあの「神話的思考」にほかなりません。近代にはすでに死に絶えたと思われていたその思考方法が、これほどまでにすばらしい表現に到達した例は、ほかではめつたに見られません。この作品は形式において神話であるのみならず、語られている思想内容において、神話の精神をもののみごとに体現しているのです。

宮沢賢治がこの作品を書いた頃（一九三三年）、ベーリング海峽を挟む北方の世界には、まだたくさん狩猟民たちが住んでいました。北海道とサハリンにはアイヌが、サハリンの北地方にはウイльтаやニヅフ（ギリヤーク）がいました。対岸のオホーツク海に面したアムール川流域には、オロチやウリチなどの狩猟民がいましたし、さらに北にはコリヤーク、アジア側ベーリング海峽のあたりにはチュクチが住んでいて、そのままベーリング海峽を越えると、文化的な連続性を保ちながら、イヌイトやアメリカ大陸

北西海岸のインディアン諸部族の豊かな世界が広がってきます。

そうした北方の世界では、夏の季節の間は、人間が生きるために狩猟をおこなって、動物を殺すのですが、冬の季節になると、こんどはその関係が逆転して、動物たちの王である精霊が、人間を食べてしまうという考えが、神話や儀礼を通して、あざやかに表現されていました。そこでは、人間がいつでも圧倒的な力で支配するのではなく、人間もまたほかの動物を食べたり、ほかの動物によつて食べられたりする捕食の連鎖の中に巻き込まれた、なんら特別な存在ではない生命の一員として、人間よりも大きな存在によつて「食べられなければならない」という思想が、生きていました。

ところが、アイヌの世界を南限として、このような思想は語られなくなってきました。かわりに登場してくるのが、人間の生物圏における優位性を少しも疑わない人々です。この人々は、自分だけが食物連鎖の環から超越した存在であると思ひ込み、動物たちを自由に家畜にしたり、動物園に囲い込んだり、スポーツとなつた狩猟で動物たちを殺してもかまわないと思うようになります。少なくとも、そういうことに疑いを持たない人間となるのです。

宮沢賢治はこういう近代人の象徴のような人たちを、『氷河鼠の毛皮』のなかで、まとめて「最大特急ベーリング行」の列車に乗り込ませているのです。彼らは防寒用の分厚いコートを何枚も重ね着し、動物が見たら震え上がってしまうようなピカピカに光る鉄砲をたずさえ、なんの不安も抱くことなく、列車の座席にからだを埋めて、眠りこけています。そういう人間たちの代表が、大富豪のタイチでしょう。この男はたかが友人との賭けのために、黒狐を九百匹も仕留めて、毛皮を手に入れようと、ベーリング行き③の列車に乗っています。資本を持っていて、その資本を投資や利殖によつて増幅させていくことのできる、近代のお金持ちの代表でしょう。

その列車の中に、ただ一人、貧乏な青年が乗り込んでいます。いかにも寒そうな粗末な黄色いジーンズの上着を着ているだけのこの青年は、ほかの乗客たちとの会話に加わることを拒絶して、じつと暗い車窓を眺めています。青年はどこか④でお金持ちたちが心地のよい生活を追求しているのに、青年はそれに背を向けようとしています。

④ な生活は人の心を鈍くしてしまいます。その結果、この世界の奥のほうで繰り広げられている、残忍な光景が見えな

くなつてしまいます。この地球上でごく一部だけが豊かで、安楽な生活を送ることができるとは、それよりもはるかに多くの人々や動物たちが、耐え難い苦痛や死を味わわなければならないのだという現実を、まなこを開いて凝視し続けなければならないと、この青年は考えていたのしょうから、その心は車中の人々の会話などにはなく、はるか北方に広がる神話的思考の王国に、まつすぐに注がれていたはずで。

北方の白銀の世界に生きる狩猟民たちは、タイチのようなお金持ちの目から見たら、お話にならないほどに貧しい暮らしをしています。家といったら半地下式のなぞな壁穴住居でし、食べるものだつて家具だつて粗末なものにすぎません。タイチのようなお金持ちは、そういう人たちを見るとかわいそうになつて、厚い毛皮のコートを貸してあげようとか、援助物資をあげたらいいだろうとか思いつくものです。しかし、黄色いジーンズの若者はそういう親切な申し出にも耳を貸しません。それが貧しい暮らしとは、ちつとも思っていないからです。それよりも問題なのは、豊かなものと貧しいものとの間や、人間と動物との間につくりあげられてしまつてゐる、身動きもとれない非対称の現実に対してまったく無神経になつてゐる、近代人の心のあり方です。

人間と動物との間になんとか対称的な関係を取り戻そうと考へていた、神話的思考に生きる人々は、しかしこの近代世界の中では、どんどんと悲惨な生活に追い込まれていつていきました。そのかわりに、圧倒的な非対称で出来上がった現実なんの疑いを持つことなく、それが天地の道理だと思ひこんでいる人たちのほうは豊かで、これからの楽しみのための狩猟に出かけようとしてゐるのです。それは本質的な優しさを欠いた世界です。どうやったらそんな世界を覆したり、変えていつたりすることができるのでしょうか。

そこで、『氷河鼠の毛皮』では、北方の神話的世界の「王者」である白熊が、この状況に根本的な変化をもたらすために登場します。白熊はある大胆な行動を実行に移したのでした。テロリズムです。大きな力で押さえつけられて、どんなにしても自分たちの主張や思いをその理不尽な相手に伝えることができないときに、弱者はしばしばテロの手段に出るものです。白熊は北極圏の動物たちを指導して、理不尽極まりない非対称的状况を転覆すべく、列車を停止させて、そこへどやどやと乗り込んできました。無神経なまま、動物たちにとつてもない苦しみを与へてゐる者を処刑しようというのです。

おそらく白熊たちの主張は、こうでしょう。かつては人間と動物の間には、対称的な関係がなりたつていた。もちろん人間のほうが技術の力でまさっているから、どうしたつて現実には対称性などは実現できなかったけれども、まだ優しい心を失っていないかった人間たちは、神話や儀礼を通じて、人間と動物との間に対称的な関係を取り戻そうと努力を重ねていた。ところが、最近になると、人間たちはそういう神話の思考などを馬鹿にしはじめ、神話から脱却するのが進歩だとか吐かしたあげくに、動物に対する人間の支配を天地の道理のように考えるようになってしまった。われわれはかつて実現されていた、動物と人間との関係の復活を要求する。人間と動物の双方が寄り集まって、地球上に生きるすべての生命が発言の権利を持つ会議を持たなければならぬ、とわれわれは考える。しかし、ほとんどの人間たちは、動物たちが悲鳴のようなメッセージをいくら発しても、いっこうに耳を貸さなかつた。そこでわれわれは、弱者に残された唯一の手段であるテロを実行に移すことにした。テロがよくないことぐらいは、われわれだつてよく知っている。しかし、われわれをそこに追い込んでしまった人間たちのしていることは、もつと悪い。いまや人間たちは許し難い「野蠻」に陥っている。

⁽¹⁾ まるでこの作品は予言のようではありませんか。「最大急行ベールリング行」に起こつた出来事は、まったく最近のニューヨークに起こつた事件を彷彿させるではありませんか。地球上でもつとも豊かな暮らしを享受している人々は、そのことですっかり無神経になつて、ほかの大多数の人類に、理不尽な非対称の状況を押しつけているのではないのでしょうか。テロの行為は「野蠻」です。しかし、それを誘発したのは、別の種類の「野蠻」なのです。

(中沢新一『熊から王へ』より)

The first part of the document discusses the importance of maintaining accurate records of all transactions. It emphasizes that every entry should be supported by a valid receipt or invoice. This not only helps in tracking expenses but also ensures compliance with tax regulations.

In the second section, the author provides a detailed breakdown of the monthly budget. It lists various categories such as housing, utilities, food, and transportation, along with their respective costs. This helps in understanding the overall financial picture and identifying areas where savings can be made.

The third part of the document focuses on investment strategies. It discusses the benefits of diversifying one's portfolio and the importance of long-term planning. The author suggests consulting with a financial advisor to tailor an investment plan that aligns with individual goals and risk tolerance.

Finally, the document concludes with a summary of key points and a call to action. It encourages readers to take control of their finances, review their budget regularly, and make informed decisions about their investments.

The following table provides a summary of the monthly expenses mentioned in the budget section.

Category	Monthly Expense
Housing	\$1,200
Utilities	\$300
Food	\$400
Transportation	\$200
Insurance	\$150
Entertainment	\$100
Healthcare	\$50
Savings	\$300
Total	\$2,900

This table illustrates the distribution of monthly costs, highlighting that housing and utilities are the most significant expenses. It also shows that a portion of the budget is allocated towards savings, which is a key component of long-term financial stability.

The document also includes a section on debt management. It discusses the importance of understanding the terms of any loans or credit cards and making timely payments to avoid penalties and interest. The author suggests creating a debt repayment plan that prioritizes high-interest debts first.

Additionally, there is a section on emergency fund preparation. It stresses the need to have a reserve of funds to cover unexpected expenses, such as medical emergencies or job loss. The author recommends saving at least three to six months' worth of living expenses.

The final part of the document provides a checklist of financial goals and a timeline for achieving them. This helps in staying motivated and on track with one's financial aspirations.

In conclusion, this document serves as a comprehensive guide for individuals looking to improve their financial health. It covers essential aspects such as budgeting, investing, debt management, and emergency fund preparation. By following the advice provided, readers can take proactive steps towards achieving their financial goals and securing their future.

The author hopes that this information is helpful and encourages readers to seek professional advice if needed. Remember, financial success is a journey, and it requires consistent effort and smart decision-making.